

東御

がん患者や家族
思いを語り合う

「哲学外来カフェ」



東御市は26日、がんとの向き合い方に哲学的な考えを取り入れて患者らと接する「がん哲学外来」で知られる順天堂大医学部教授の樋野興夫さ

ん(62)を招き、がん患者やその家族らが悩みを共有して思いを語り合う「がん哲学外来カフェ」を市中央公民館で初めて開いた。がん患者やその家族、支援者ら約20人が、お茶を飲みながらテーブルを囲んだ。

「がん哲学外来」は樋野さんが2008年から開始。同じような境遇の患者や支援する家族らがじっくりと話し合う「カフェ」とともに、実践例は全国に広がっているという。この日、参加者は4、5人ずつに分かれ、病気を告知された際の衝撃や闘病生活の苦労などを話し合った。笑いや涙を交えた体験談のほか、病気をきっかけに人生を見直す機会になったと前向きな意見もあった。

この先、がん患者と接した時に自分は何ができるかを考えたいと参加した小諸市の男性(76)は「病気にめげず生活している人の話を聞き、逆に自分が元気をもらえた。がん患者に出会うことがあれば、できる限りのことをしたいと思った」と話していた。

カフェで参加者に語り掛ける樋野さん